

身体拘束最小化への宣言

2026年度より看護部長に就任いたしました鵜川です。武蔵ヶ丘病院は、地域に根差した二次救急・地域包括ケアを担う病院として、新たなステージへ進みます。その象徴として、私は「身体拘束の最小化、そしてゼロ化」を強力に推進することを宣言します。

かつては「転倒防止のため」「治療継続のため」と止むを得ないと考えられていた抑制も、現代の看護においては、代替案を模索し続けるべき課題です。

さらに、身体拘束をなくすことは、現場に負担を押し付けることではありません。むしろ、これまでの「当たり前」を見直し、最新のテクノロジーや「認知症マフ」のような新しいケアを導入することで、私たちの専門性をアップデートするチャンスととらえています。私たちは、すでに、先進事例の視察や、五感を刺激し安心感を与える「認知症マフ」の導入など、具体的な一歩を踏み出しています。

「なぜ拘束が必要なのか」を問うのではなく、「どうすれば拘束せずに済むか」を全員で考える文化を創ります。

これは容易な道ではありません。しかし、看護の専門性を発揮し、多職種で知恵を出し合うことで、患者さんの自由と尊厳を守る道が拓けると信じています。私はその先頭に立ち、現場を全力でサポートしていくことを約束します。

看護部長 鵜川美沙